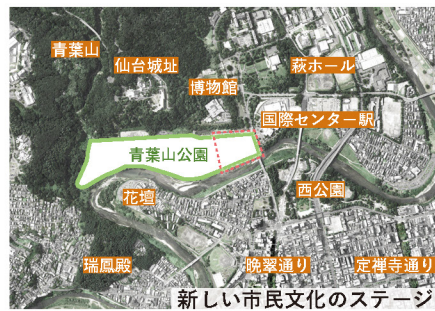
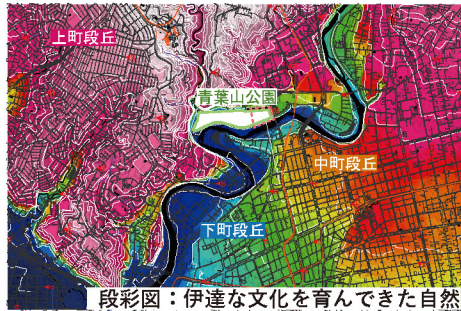


1 設計趣旨、公園全体のテーマとコンセプト

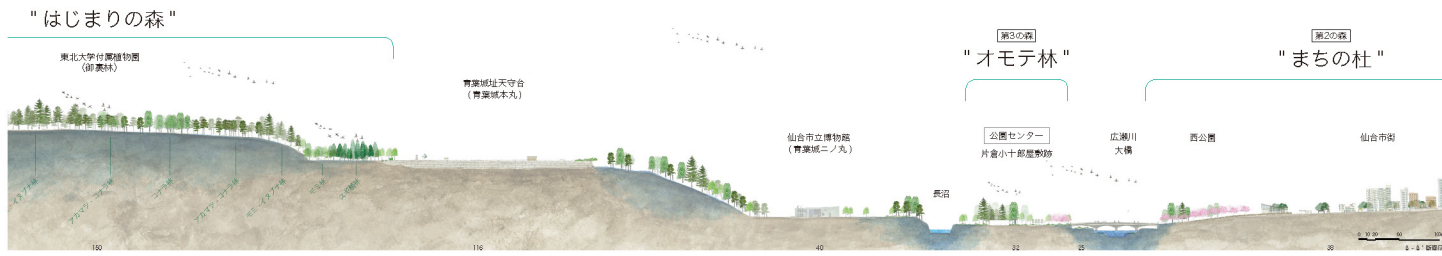
1-1 もりの歴史を未来へつなぐ

青葉山公園の出会いの場である公園センター地区は、歴史的にも仙台の「街づくりの起点」。現在を生きながら歴史を受け継ぎ、未来へつないでいくという観点から、観光客と市民、市民同士、多世代間の交流を創造していく「ひと―街づくりの拠点」を目指します。仙台の「はじまりの場所」で未来へつながる＜市民観光交流＞を創造します。



1-2 せんだい=自然×歴史文化

大橋の袂に位置する公園センターは最も「仙台らしさ」を体現すべき場所です。広瀬川右岸には仙名城と共に野趣あふれる自然が立ち上がり、左岸には仙台の街の姿が広がります。蛇行する広瀬川によって形成された豊かな自然と400年以上積み重ねられてきた歴史文化のコントラストが仙台のシンボル景観となります。



2 公園デザインコンセプト

2-1 公園全体のエリア構成

旧・片倉屋敷跡を含む長沼に沿った「仙名城エリア」、かつて馬を走らせた場所として広がる「追廻エリア」、仙台のシンボル景観における最前線を担う「広瀬川エリア」が3層平行して特徴ある空間を構成し、竜ノ口渓谷の入り口から続く自然豊かな「竜ノ口エリア」と共に4つのエリアにより青葉山公園を特徴付けます。



仙名城エリア
"仙名城フロントガーデン"
仙名城の麓を囲める多機能なゾーン。和を意識した空間で構成し、仙名城へのアクセスの拠点となる。公園センター、庭園、集まり広場、乗降場、駐車場など。

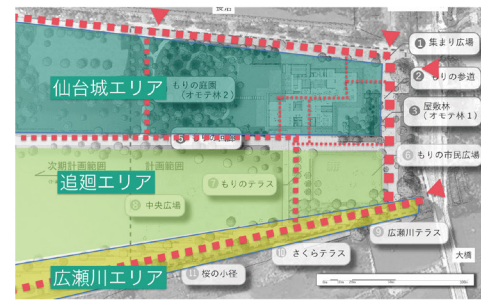
追廻エリア
"広瀬川パークライフフィールド"
仙台随一の芝生のオープンスペースや木陰のあるテラス空間が人々の様々な活動を受けとめる。緑陰や休憩スペースを周縁部に配置する。

広瀬川エリア
"せんだいシンボルテラス"
550m 続く仙台のリバーフロント空間であり仙台らしさを象徴する青葉山公園の「顔」となる空間。対岸には仙台の街を一望できるシティブュー。花木による緑の回廊。

竜ノ口エリア
"青葉の森"
竜ノ口渓谷へ繋がる空間として、森と水、生き物の聖域として散策、自然学習、体験学習などを楽しめるエリア。(計画範囲外)

2-2 仙台の顔をつくるランドスケープ計画

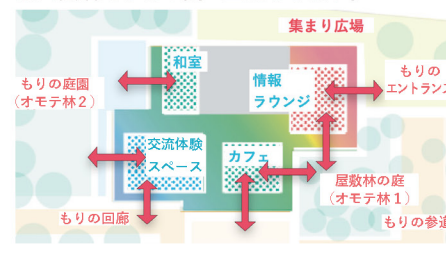
平行する三つのエリアの特徴に合わせた屋外空間の計画を行いました。「仙名城エリア」では歴史文化を感じさせる和のテイストを持つ庭園を配し、「追廻エリア」では市民が十分に活用できるオープンスペースを、「広瀬川エリア」では誰もが仙台らしい景観を感じられる水際空間を細やかにデザインしています。



3 公園センターデザインコンセプト

3-1 記憶を受け継ぐ建築計画

旧・片倉屋敷について残された記録から柱割や空間の大きさを継承し、記憶を継承します。重なり合う回廊と屋根は、当時の武家屋敷が大切にされてきた自然観、屋内外を空間構成や意匠・素材を駆使してつなぎ合わせる作法を現代に受け継ぎます。また新しい技術によって地域の素材を最大限活用した木質の空間とします。



3-2 杜の都の誇りを後世につなぐ意匠計画

後世につなぐべき、杜の都の誇りとは、豊かな自然景観の中に文化が築かれてきたことです。内と外を繋ぐ回廊や欄間、観光客と市民や市民と運営をつなぐ広瀬川カウンター、ライブラリー空間など「つなぐ」をテーマに意匠計画を提案します。同時に「伊達な文化」の特徴でもある「意表をつく粋な斬新さ」「時代の息吹」を取り入れながらも、この地に育まれてきた和の美しさを体感できる空間とします。



4 展示計画コンセプト

4-1 体感型情報ラウンジ(案)

「仙台らしさ」を表す自然と歴史文化の関係を「森と杜(もりともり)の共鳴」という展示コンセプトで表現し、大規模展示、レプリカ展示、マルチメディア展示など全ての展示コンテンツに通奏する主題として位置付けます。この場所に重ねられてきた記憶に敬意を払いながらも、青葉山公園一帯のコアセンターとして、また歴史文化都市の回遊拠点としての役割を果たします。



全体デザイン計画

ランドスケープ(公園センター及びその周辺)について、
コンセプトと基本設計における「デザインの方向性」の重要なポイントをご説明いたします。



面積表

広場名	面積 (m ²)	主な特徴
1 集まり広場	約 1,508	観光バス停留可・団体客の待ち合わせなど
2 公園センター	約 2,456	観光機能・カフェ機能・市民活動機能を集約
3 もりの参道	約 1,400	博物館・五色沼登城路からの人の流れる空間
4 屋敷林(オモテ林1)	約 850	屋敷林を想起させ公園センターと一体となる庭
5 もりの庭園(オモテ林2)	約 6,428	御裏林を想起させる庭園
6 もりの回廊	約 925	森の庭園と中央広場の緩衝帯となる回廊空間
7 市民広場	約 2,188	多目的な市民活動のスペース
8 もりのテラス	約 1,221	カフェと一体で広瀬川に向かって開かれたテラス
9 中央広場	約 6,709	広々とした芝生広場
10 広瀬川テラス	約 93	広瀬川の流れを感じながら過ごせる
11 さくらテラス	約 346	森の庭園と中央広場の緩衝帯となる回廊空間
12 桜の小径	約 1,672	川沿いに国際センターから続く遊歩道空間
13 歩道	約 589	
合計	約 26,389	

次期計画範囲

計画範囲

scale 1/800

0m 10m 20m 50m 100m

